

「民俗学」とはどんな学問か

民俗学は、人びとの間で、口伝えによって伝承されてきたり、生活のなかで受け継がれてきた人びとの意識や観念、行事や儀礼、制度や慣習などについて調べることを通して、人びとの生活文化の歴史的な展開を明らかにし、そこから現代の生活文化について説明しようとする総合的な学問です。

櫻井先生は、柳田國男氏が創始した日本民俗学研究を発展させ、国内はもとより韓国や中国、台湾などを訪ね歩き、民間信仰などを巡る習俗や伝承などを記録し続けてきました。その結果、取材データや古老の聞き取りテープなど価値のつけようもない貴重な資料が多数残されました。土地に普通に暮らす人びとが、何を考え、苦悩し、求めてきたのか。生活を癒したものは何だったのだろうか。伝統的な地域共同体の実態を探り、記しながら、先生の民俗学研究は半世紀を越えて続けられました。

また先生は生前「本当の日本学※と言われるような学問を打ち立てるには、中央の学者のまねをするのではなく、土地に暮らす人が地域に即した学問を進める必要がある」とおっしゃられていました。この言葉を胸に私たちは、郷土「いたばし」を愛し、大切にしていけるよう学び続け、文化を育んでいく努力をしていきたいものです。

※日本学…日本の歴史や文化を研究する学問のこと



櫻井先生が民俗調査の状況を書き綴ったフィールドノートの一部



民俗学研究所の人びと 柳田國男翁と共に（1955年12月4日撮影）

（柳田氏は前列右から1番目、櫻井先生は後列右から2番目）